

# NEW PRODUCTS

Visual Studio.NET/.NET Framework関連ツール新製品レビュー



## List & Label 9.0

あらゆるタイプのレポート、リスト、ラベルを生成できるコンポーネント



精進湖計算機  
立中 秀樹 TATENAKA, Hideki

問  
合  
先

株式会社エージーテック

TEL : 03-3293-5283

URL : <http://www.agtech.co.jp/>

FAX : 03-3293-5270

MAIL : [info@agtech.co.jp](mailto:info@agtech.co.jp)

### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

### Environment

ターゲットOS  
Windows 98/Me/NT4.0/2000/XP/  
Server 2003

対応開発環境  
Visual Basic 4.0以降  
Visual C++ 5.0以降  
Visual Studio .NET 2003他

価格  
134,400円 (Web Server License  
5-Userライセンス含む)

### ■ 帳票コンポーネントを 選ぶ決め手

このコーナーには、帳票に分類されるコンポーネントがこれまで多数紹介されています。このことからわかるように、標準の開発環境だけではさまざまな帳票の要求に対応できません。そこで多数ある帳票コンポーネントの中からどれを選ぶかが問題になります。ある程度開発する帳票の形式が決まっていれば帳票コンポーネントを選択する指標となりますが、どんな仕様を突きつけられるかわからない開発者としてはいろいろな形式に対応できるコンポーネントを選びたいものです。

今回紹介する「List & Label 9.0」はドイツのCombit社が開発したコンポーネントで、特にその用途の広さを謳っ

ています(表1)。それだけに使用法も簡単ではない気がしますが、“わずかな労力で開発可能”との記述もあります。しかも、多数のWindows用開発環境に対応しており、VB6.0のOCX、DelphiのVCL、.NET環境用のコンポーネント(ListLabelコントロール)などが用意されています。

とてもすべての機能を紹介することはできませんが、今回は.NETを利用してこのコンポーネントを使用する方法についてサンプルを交えて紹介していきます。

### ■ 特徴的なデザイナ

List & Labelの特徴のひとつとして、「帳票のデザイナがレポート出力コンポ

表1: List & Label 9.0で出力可能な主なレポート

種類	内容
レポートとリスト	リスト、レポート、サブレポート付きレポートなどを作成可能
チャート	棒、円、線、折れ線、積み上げなどの各種チャートに対応。すべてのチャートは3Dまたは回転表現が可能
フォームおよびファイルカード	数多くの定型サイズのフォームテンプレートを用意。オリジナルフォームの背景にスキャンした画像を設定可能(配置補助機能)
ラベル	25種類以上のバーコード形式に対応。2000種類の標準ラベル書式が組み込まれており、独自カスタマイズも可能
メールマージ	RTFオブジェクトを用いて、メールデータを利用可能
エクスポート	PDF、HTML、XMLをはじめ、多彩な形式で作成したレポートのエクスポートが可能

ーメントに組み込まれている」ということが挙げられます。List & Labelを組み込んだアプリケーションは、同時に帳票のデザイナー機能も組み込まれ、当然配布に関しても別途ライセンスは発生しません。

デザイナーは、わかりやすくてすっきりとしたユーザーインターフェイスを持ち、指定した大きさの用紙にオブジェクトを貼り付けてゆく方法でデザインを行ないます。デザイナーダイアログのデザインを選択できたり、ドッキングやフローティングが可能なツールウィンドウを備えるなど、エンドユーザーの使い勝手もよく考慮されています。さらに、デザインの新規作成時にはウィザードが起動して各種帳票の作成を手助けしてくれます。

ただ、他の帳票ツールを使ったことのある開発者がこのコンポーネントを使うにあたって最初に戸惑うのがこのデザイナーでしょう。通常、デザイナーで帳票のデザインを行ない、コーディングでその帳票にデータを付与していくという方法でアプリケーションを構築します。しかし、List & Labelでは、アプリケーションを組まないことにはデザイナーを呼び出すことができません。

アプリケーションを作成し、デザイナーを呼び出すコードを書き、アプリケーションを起動する、といった作業がまず必要になるわけです。このやり方がよいかどうかは別としても、筆者も

はじめ違和感を覚えました。

このデザイナーは、「出力対象のデータはすでに存在し、そのデータをどのような表現で帳票として出力するかを決定する」という位置づけで用意されているようです。しかし、開発者が帳票出力アプリケーションを作成する場合は、すでに帳票デザインが決定していて、帳票デザインの作成と、出力データを抽出するアプリケーションコーディングを並行して行なうことも多く、これがこの違和感の原因と言えます。そこで、以降でList & Labelを使って、デザイン先行でアプリケーションを作成してみましょう。

## ■ デザイナー起動アプリケーション

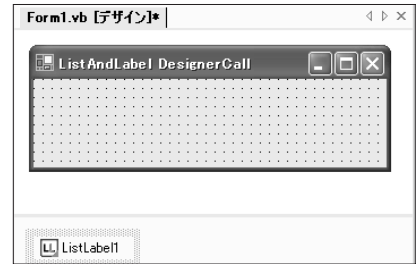
まずは、デザイナーを起動して帳票定義ファイルを作成するためのアプリケーションを作成します。

VS.NETで「DesignerCall」という名前のWindowsアプリケーションプロジェクトを作成し、フォームに (Form1) にListLabelコントロールを配置します (図1)。ListLabelコントロールを使用するにはフォームが必要ですが、実際には表示する必要はないので、Form1のOpacityプロパティを“0”に設定して透明にしておきます。

## ■ Sub Mainの作成

デザイナーがコマンドライン引数を受

図1：ListLabelコントロールを配置



け取れるように、モジュールを追加してSub Mainを記述し、アプリケーションをSubMainから起動するようにします。[新しい項目の追加] でモジュール (Module1) を追加し、リスト1のコードを記述します。

Sub Mainに、コマンドライン引数を得るためにCmdArgsを設定しています。第1引数のみを対象としているので、CmdArgs(0)を参照してファイル名を設定するためのPublic変数に代入しています。Sub Mainが引数なしで起動された場合はTry...Catchで捕まえて、何もせずにフォームを起動します。

後述するForm1\_Loadイベント内でデザイナーがモーダルダイアログとして開くため、フォームが閉じられた後はすぐにアプリケーションを終了するようにしています。

続いて、アプリケーションをこのSub Mainから起動するために、プロジェクトのプロパティページを開き、「スタートアップの設定」を“Sub Main”にしておきます。

リスト1：コマンドライン引数を取得するためのコード

```
' 編集する帳票設定ファイルのファイル名
Public OriginalFile As String = ""

Sub Main(ByVal CmdArgs() As String)
' コマンドライン引数の取得
Try
    Dim cmd As String = CmdArgs(0)
    OriginalFile = cmd
Catch ex As Exception
```

```
End Try

' Form1 を起動
Dim FRM As New Form1
FRM.Visible = False
FRM.Show()
' Form1内でデザイナーを閉じたらアプリケーションも終了
FRM.Dispose()
Application.Exit()
End Sub
```